

短 報

聖路加国際大学看護学部2015年度刷新カリキュラム

松谷美和子¹⁾ 大久保暢子¹⁾ 飯田真理子¹⁾ 五十嵐ゆかり¹⁾ 井上 麻未¹⁾
 宇都宮明美¹⁾ 大橋久美子¹⁾ 小野若菜子¹⁾ 梶井 文子¹⁾ 加藤木真史¹⁾
 木戸 芳史¹⁾ 倉岡有美子¹⁾ 佐居 由美¹⁾ 千吉良綾子¹⁾ 鶴若 麻理¹⁾
 長松 康子¹⁾ 眞鍋裕紀子¹⁾ 三森 寧子¹⁾ 山田 雅子¹⁾ 高橋 昌子¹⁾

FY2015 Curriculum Revision
 for St. Luke's International University College of Nursing

Miwako MATSUTANI¹⁾ Nobuko OKUBO¹⁾ Mariko IIDA¹⁾ Yukari IGARASHI¹⁾
 Mami INOUE¹⁾ Akemi UTSUNOMIYA¹⁾ Kumiko OHASHI¹⁾ Wakanako ONO¹⁾
 Fumiko KAJII¹⁾ Masashi KATOJI¹⁾ Yoshifumi KIDO¹⁾ Yumiko KURAOKA¹⁾
 Yumi SAKYO¹⁾ Ayako CHIGIRA¹⁾ Mari TSURUWAKA¹⁾ Yasuko NAGAMATSU¹⁾
 Yukiko MANABE¹⁾ Yasuko MITSUMORI¹⁾ Masako YAMADA¹⁾ Masako TAKAHASHI¹⁾

〔Abstract〕

This paper describes the background, purpose, and outline of the revised curriculum, which started in FY2015 for St. Luke's International University College of Nursing.

The College of Nursing and St. Luke's Hospital created a corporation as an educational foundation and changed the school name to St. Luke's International University, which became official April 1 in 2014. Along with the merger of the education and hospital we decided to reflect the international focus of the corporation in related subjects in the curriculum.

By way of background, our highly valued goal is for the further development and contribution to the public that our College and Hospital can make to realize the corporation. In examining the curriculum of the College of Nursing, we recognized there were gaps between theory and practice and a need for support systems for students' clinical education.

Out of that recognition, we developed some clinical practicums and placed them by stages. As for the instructional system, we started the master's course for Clinical Nurse Educator and developed a collaboration team system for the practicums. The revised curriculum had some practicums that supported the development of students' competencies and some subjects that graduates are expected to be able to apply what they learned using their skills for developing their competencies.

Hereafter we systematically implement the new curriculum, monitor students' learning motivation, evaluate improvement of the graduates' clinical competencies, and use feedback to improve the outcomes.

〔Key words〕 curriculum revision, nursing, education, baccalaureate

〔要 旨〕

本稿は、2015年度より聖路加国際大学看護学部での運用を開始した改訂カリキュラムについて、改訂の背景、目的、概要について報告するものである。

1) 聖路加国際大学看護学部カリキュラム2015委員会 St. Luke's International University, Curriculum 2015 Committee

大学と病院が法人による一体化を果たし、2014年4月1日より、校名を聖路加国際大学と変更した。これに伴い、国際化をカリキュラムにも反映することとなった。

一体化の背景のひとつには、大学および病院のさらなる発展と社会貢献のためには、組織の一体化による協働体制の実現がもたらす教育・実践・研究の連携強化・充実の希求があった。そして、学部教育においては、いわゆる理論と実践との乖離の認識、教員の実習指導をサポートする体制の必要性の認識があった。これらに基づき、学部のカリキュラムについては実習科目単位数の増加と科目配置の工夫、指導体制については研究科の看護教育学上級実践コースの設置を含む臨床教育協働体制構築を計画し、卒業生の活躍を考慮し科目変更を行った。

今後は、改訂カリキュラム運用を軌道にのせ、学生の主体的な学びの実現をモニターすると共に、臨床実践力の向上を継続的に評価し、教育にフィードバックしていく。

【キーワード】 カリキュラム改訂, 看護学, 教育, 学士

I. はじめに

聖路加看護大学は、聖路加国際メディカルセンターと同一法人として一体化を果たし、2014年4月に学校法人聖路加国際大学が誕生した。1964年に短大から大学へと前進してからちょうど50年となる。一体化にあたり、大学はさらなる発展を期して、様々な改革に取り組み、グローバルな価値の生成に貢献していくことを決意した。一方、同時期に文部科学省の推進する大学のガバナンス改革に対応して、本学も学校法人としての組織の整備とガバナンス改革を推し進め、教育・研究・社会貢献機能の最大化実現に向けて始動した。学生支援体制、危機管理体制、研究支援体制を強化し、地域社会貢献体制の構築を開始し、ミクロからメゾマクロレベルの自己評価体制を強化しつつある。法人としての一体化にあたって看護学部では、学部実習協働体制を整備し、よりよい看護職者を育てたい、より優れた看護実践を行いたいという大学と病院の目的の一致点を目指すこととした。大学はカリキュラムを改訂し、実習科目単位数を増やすと共に、導入から卒業までのプロセスを順序よく踏むことができる科目配置とした。よりよい看護職者を育成・輩出し、病院はよりよい人材による医療の質の改善を目指すこととなった。

II. カリキュラム刷新の目的と基本方針

2013年11月5日の学部カリキュラム改訂プロジェクト・学士3年次編入学制度導入プロジェクト全体会において、カリキュラム刷新の目的として次の3点を確認した。(1) 大学と病院の法人一体化に際し、学部教育における臨地実習の課題を解決するために、教育課程の新しい編成・実施方針を確立する、(2) 教育課程の新しい編成・実施方針に基づいた新カリキュラムを構築する、(3) 学

士編入生が2年間で国家試験受験資格を得られるようなカリキュラム編成を実現する。

上記(1)にある臨地実習の課題は、次の4点である。①23単位で7領域にわたる実習を行うため、1領域の実習は2週間ごとに分断され、内容の深まりが制限されている、②免許取得前であるため実習で行える看護実践の範囲が狭い、③病院側の人的体制等の要因から臨床側の都合が優先され、実習でよいケアや新しい知識を得るための双方のシナジーが十分に働かない、④学生5-7名に一人の教員が実習場に赴いて指導する体制のため、特に若手教員の研究時間が制約されている。

これらの解決策として、聖路加国際メディカルセンターのすべてのスタッフが大学との一体化を前提とした、教育を担う責任ある一員であるという認識を持ち、実習体制を整えることによって、従来の23単位の实習にさらに11単位を加えた34単位の实習が可能となり、チーム医療の学習や主体的に学ぶ力の強化を図ることができることを確認した。

具体的には、①サービスマスターを取り入れ、学生が1～2年次に実践現場で求められるボランティア活動を継続的に行い、看護の現場に徐々に慣れる段階を設ける、②テーマ別実習を行い、看護で喫緊の課題となっている現場で求められる対応に対する理解を深め、考える力をつける実習(例：退院支援・調整、訪問看護、ケアプラン立案、救命救急、精神保健等)を行う、③統合実習として、附属病院の全病棟(約20部署、各4名)で、チームの一員としての実習を行う。

1週目は午前中臨床現場で実習を行い、午後は大学で自己学習やグループ学習を行う、2週目は週日実習を行い、必要時現場でチーム医療カンファレンスを行うという方向性が提案された。2つのプロジェクトの合同開催は初回のみで、2回目以降は学部カリキュラム改訂プロジェクトのみで検討を継続した。

表1 本学の理念・目的, 教育目標, 教育課程の編成・実施方針

本学の理念・目的

この法人はキリスト教主義に基く人類奉仕の精神を体し, 社会の情勢に適應する看護教育を授ける私立大学を設置することを目的とする。(寄付行為第3条)

教育目標

建学の精神に則り, 看護学を専門とし, その職域において指導者となる人材を育成する。

教育課程の編成・実施方針

本学の教育は, 学生が各個人に賦与された資質を心身両面にわたって調和よく発展させ, 知的能力と判断力を高めるとともに, 道徳的, 倫理的価値観を形成するように支援する。自他を問わず人間を愛し, 相互に理解し合い, 人種・信条を問わず人間社会の種々の領域に積極的に参加し, 看護を通して公共の福祉を推進する人材となるよう支援する。

また, 社会の要請に応じて, 教育と研究を通して看護学の発展のために努力を続け, その成果を看護教育と看護実践に役立てることによって, 広く社会に寄与する人材となるよう支援する。

2014年4月15日のカリキュラム2015会議において, 2011年度から運用を開始した現行カリキュラムとの変更点確認を行い, People-Centered Care (PCC) 概念に基づくカリキュラム・モデルは変更しないことを確認した。また, 本学の理念・目的, 教育目標, 教育課程の編成・実施方針を確認した(表1)。

Ⅲ. 改訂内容

2013年11月のプロジェクト開始の後, 校名変更の検討がなされ, 2014年4月1日より聖路加国際大学に名称を変更した。これに伴い, カリキュラムにも国際化を反映することが決定した。一般教育科目に「文化人類学」を設け, 語学については英語, ドイツ語, 中国語に加えてスペイン語を配置した。総合科目Ⅰ～Ⅴについては, 国際交流演習などの科目名を前面に出した。2015年度より看護学研究科に保健師国家試験受験資格を取得できる公衆衛生看護学上級実践コースが設置され, 看護学部での公衆衛生看護学実習ⅠおよびⅡは廃止となった。2015年度改訂カリキュラムにおいて科目名を変更した科目, 新設した科目, 内容の重複などを整理統合した科目の一覧は表2の通りである。また, 2015年度改訂カリキュラム構成は図1の通りである。

Ⅳ. 実習科目の充実

実習科目は, これまでの23単位から34単位へと単位数を大幅に増やし, 看護学生としての入り口から出口までを段階的に積み上げることができるよう科目の内容と配置を工夫した。看護展開論実習と総合実習はそれぞれ1単位増加となり, 新たに9単位の实習科目を追加した。追加の実習科目はすべて選択科目とし, 2年次学士編入制度を3年次編入に変更した場合を考慮すると同時に, 既に社会人経験をもつ学生へも配慮した。

1. 『サービラーニング』**1) 科目概要と誕生の経緯**

サービラーニングの概念は国内外でさまざまな定義がなされているが, 本学では文献検討と本学の教育目的を統合し, 「地域社会のニーズに沿ったサービスに参加することによって, 意図的になされる経験学習であり, コースの教育内容を深め, 市民としての責任感, 社会的価値を高めるような大学と地域とのパートナーシップあるいは連携によってなされる教育カリキュラム」³⁾と捉えている。この科目は, 社会人としての素養を養う科目であり, 看護専門職に就く前の準備学習と位置づけている。

当該科目は, 本来, 本学国際看護学教授であった田代順子氏(現特任教授)が, 2002年から2009年文部省科学研究費の獲得と共に, 教育内容と教授方法の基盤を作り, 本学総合科目「生活科学論ボランティア活動学習(2単位)」としてスタートしたものである¹⁾。田代は, 米国が1970年代から本来の民主社会を目指すべく, 利己主義や個人主義からの脱却, よき市民の育成を狙った若者対象のサービラーニングに着目し, さらに国内外でボランティア活動をしている本学学生に対する課題と重ね合わせながら, 本学に必要な科目としての構築を行った²⁾。また, 「利己主義や個人主義から脱却しよき市民である」という考えは, 本学の看護の中核概念である People-Centered Care (PCC) に通じるものであり, 加えてキリスト教精神である隣人愛にも通じることが, 田代が本科目導入に熱意を込めた所以であろうと捉えることができる。

2) 新カリキュラム科目としての教授内容

上記の礎を受けて, 改訂カリキュラム科目として開講したサービラーニングは, 表3に示す通り, 実習科目として位置付き, 学年1, 2年を対象に全専任教員が担当する2単位の科目である。ボランティアでの実際の活動を, リフレクティブ・サイクルを通して, 学びを深める。

リフレクティブ・サイクルとは, 1) 実践・経験し, 2) 何が起こったかを記述し, 3) 自分の観点から出来事の焦点化を行い, 4) そのことの更なる考察(分析), 5) 自分にとっての新たな発見や学びの体験の自覚と記述, 5) 今後さらにどのようにしていくかの行動計画を立て, 6) 再実践していく取り組みであり, 学生が自己教育の中で学びを深めることを主眼にしている⁴⁾。学生は, 各活動後にリフレクティブ・サイクルのために体験ログを記述する。体験ログは, Web上の学内学習管理システムにアップされ, 担当教員からフィードバックを受けることができる。ボランティア活動は, 単位取得上, 最低48時間行うこととし, その時間分の体験ログを教員に提出する。ボランティア活動を始める前に, 「ボランティアとは何か, ヘルス・ボランティアとは何か」を考

表2 2015年度改訂カリキュラムの科目名変更, 新設科目および整理統合科目の一覧

カリキュラム2015			カリキュラム2011		
	単位数	時間数		単位数	時間数
F107	*文化人類学	2単位			
F108	*国際交流演習	1単位	*総合科目V (国際交流演習)	1単位	
F120	対人関係論	2単位	総合科目I (対人関係論)	2単位	
F122	*自校史と看護史	2単位	30	*総合科目IV (自校学習)	1単位 15
F129	*健康科学	2単位		*総合科目II (健康科学)	2単位
F151	*ドイツ語	2単位		*ドイツ語I	2単位
				*ドイツ語II	2単位
F152	*スペイン語	2単位			
B104	病態生理学	2単位	30	病態生理学	1単位 30
B106	生涯発達論I	2単位		生涯発達論 (小児)	2単位
B107	生涯発達論II	2単位		生涯発達論 (成人・老年)	2単位
B108	メンタルヘルスと家族	1単位	15	メンタルヘルスと家族	2単位 30
				保健医療福祉行政論	3単位
N100	People-Centered Care Nursing 論	3単位	45	看護学概論	2単位 30
				People-Centered Care 概論	2単位 30
N103	基礎看護技術論I	2単位	60	基礎看護技術論	3単位 90
N104	基礎看護技術論II	1単位	30		
N105	看護管理学	2単位		看護提供システム	2単位
N200	小児看護学I	1単位	15	小児看護学 (基礎)	2単位 45
N201	小児看護学II	2単位	60	小児看護学 (実践方法)	2単位 30
				小児看護学演習	1単位 30
N202	周産期看護学I	1単位		周産期看護学 (基礎)	1単位
N203	周産期看護学II	2単位		周産期看護学 (実践方法)	2単位
N204	成人看護学I	2単位	45	成人看護学 (基礎)	1単位 15
N205	成人看護学II	2単位	45	成人看護学 (急性期実践方法)	3単位 60
				成人看護学 (慢性期実践方法)	3単位 60
N206	老年看護学I	1単位	15	老年看護学 (基礎)	1単位 15
N207	老年看護学II	2単位	60	老年看護学 (急性期実践方法)	1単位 23
				老年看護学 (慢性期実践方法)	2単位 45
N208	精神看護学I	1単位		精神看護学 (基礎)	1単位
N209	精神看護学II	2単位		精神看護学 (実践方法)	2単位
N210	公衆衛生看護学	2単位	30	公衆衛生看護学 (基礎)	2単位 45
				*公衆衛生看護学 (実践方法)	2単位 45
N211	地域・在宅看護学I	1単位	15	地域・在宅看護学	2単位 45
N212	地域・在宅看護学II	2単位	60		
N232	*学校における健康支援活動	2単位	30	*学校救急活動論	1単位 30
N111	*サービスマネジメント	2単位	90	*総合科目III (ボランティア活動学習)	2単位 30
N301	看護展開論実習	2単位	90	看護展開論実習	1単位 45
N309	*総合実習	3単位	135	*総合実習	2単位 90
				*公衆衛生看護学実習I	2単位
N310	*課題探究実習	4単位	180		
N311	*卒業実習チームチャレンジ	3単位	135		
N401	エンドオブライフケア論	2単位	30	ターミナルケア論	2単位 45
N402	看護研究法	2単位	30	看護研究I	2単位 45
N403	卒業研究	3単位	135	*看護研究II	3単位 135
				*総合看護	3単位 135
				*セルフマネジメントケア論	1単位 30
				*臨床看護総合演習	1単位 30
N408	*高齢者ヘルスプロモーション	1単位	30		
N409	看護ゼミナールI	1単位	30	*看護ゼミナール	1単位 30
N410	*看護ゼミナールII	1単位	30		
				*公衆衛生看護学実習II	2単位 90

* 選択科目 / 選択必修科目

<p>専門科目</p>	<p>4年 N410看護ゼミナールⅠ N411看護ゼミナールⅡ N430養護実習Ⅱ N408急性・クリティカルケア論 N409高齢者ヘルスプロモーション N405看護リーダーシップ N406遺伝看護学 N407周産期看護・ウィメンズヘルス N401看護政策論 N402エンドオブライフケア論 N403看護研究法 N404卒業研究 N310総合実習 N311課題探究実習 N312卒業実習チームチャレンジ N330養護実習Ⅰ N232学校における健康支援活動 N233教職実践演習</p> <p>3年 N308精神看護学実習 N309地域・在宅看護学実習 N305成人看護学実習（急性期） N306成人看護学実習（慢性期） N307老年看護学実習 N231養護概説 N303小児看護学実習 N304周産期看護学実習 N207老年看護学Ⅰ N208老年看護学Ⅱ N210精神看護学Ⅱ N213地域・在宅看護学Ⅱ N106看護管理学 N202小児看護学Ⅱ N204周産期看護学Ⅱ N206成人看護学Ⅱ</p> <p>2年 N301基礎看護技術実習 N302看護展開論実習 N211公衆衛生看護学 N212地域・在宅看護学Ⅰ N230学校保健 N201小児看護学Ⅰ N203周産期看護学Ⅰ N205成人看護学Ⅰ N209精神看護学Ⅰ N102看護展開論 N104基礎看護技術論Ⅰ N105基礎看護技術論Ⅱ</p> <p>1年 N214国際看護学 N110コミュニケーション実習 N111サービスラーニング N101People-Centered Care Nursing 論 N103ヘルスアセスメント方法論</p>
	<p>基礎科目</p> <p>3年 B110集団力動論 B112生命倫理</p> <p>2年 B111セクシュアルヘルス B109メンタルヘルスと家族 B106疾病治療各論 B105病態生理学</p> <p>1年 B107生涯発達論Ⅰ B108生涯発達論Ⅱ B103生化学 B104栄養学 B101形態機能学 B102形態機能学演習</p> <p style="text-align: right;">基礎科目</p> <p>B125保健統計学 B124健康社会学 B123公衆衛生学・疫学 B121薬理学 B122感染症学</p>

<p>教養科目</p>	<p>4年 A127教育課程論 A135生徒指導論 A163統計学演習</p> <p>3年 A134道徳及び特別活動論 A150選択英語Ⅲ</p> <p>2年 A141国語表現法 A143英語Ⅱ A146英語表現法Ⅱ－S A147英語表現法Ⅱ－W A149選択英語Ⅱ A110宗教学 A131教育制度論 A132カウンセリング概論 A133教職概論 A136女性学</p> <p>1年 A181体育Ⅰ A182体育Ⅱ A183体育Ⅲ A161情報処理演習 A162基礎統計学 A171生物学 A172物理学 A173化学 A152ドイツ語 A153スペイン語 A154中国語 A142英語Ⅰ A144英語表現法Ⅰ－S A145英語表現法Ⅰ－W A148選択英語Ⅰ A151海外語学演習 A126教育方法の研究 A128社会学 A129心理学 A130健康科学 A121対人関係論 A122歴史学 A123自校史と看護師 A124法学（日本国憲法） A125教育原理 A107倫理学 A108文化人類学 A109国際交流演習 A101キリスト教概論 A102キリスト教倫理 A103音楽 A104美術 A105文学 A106哲学</p>
-------------	---

図1 2015年度改訂カリキュラム構成

える機会を取り入れている。これは、実際に活動しているボランティアの方からの体験談を聞いたり、ボランティアに関する体験記などの書物を読むことで知識を増やし、その知識をワールドカフェ形式のアクティブラーニング手法で共有する。その後、実際のボランティア活動を行い、既存の知識との違いや連動を行うことで、思考を広げ発展させる。活動の中間と最終時に体験共有の時間も設けている。

3) 中央区ボランティア団体との連携

今回の科目開設に際して、中央区ボランティア団体と社会福祉協議会が参画し、計24団体がボランティアの受け入れ先として登録に加わった。本学は、中央区と包括連携協定を結んでおり、中央区民とともによりよい地域社会を目指している。今後も学生のボランティア活動を通して、人々皆が社会の構成員であり、健全な地域社会を作る人材であることを、学生を含めた人々皆で感じ取れるよう本科目を通して地域とのパートナーシップの形

表3 カリキュラムの刷新：実習科目の強化

2015年刷新カリキュラム			2011年度改訂カリキュラム		
1年生	コミュニケーション実習	1単位	コミュニケーション実習		1単位
	サービスラーニング*	2単位			
2年生	基礎看護技術実習	1単位	基礎看護技術実習		1単位
	看護展開論実習	2単位	看護展開論実習		1単位
3年生	小児看護学実習	2単位	小児看護学実習		2単位
	周産期看護学実習	2単位	周産期看護学実習		2単位
	成人看護学実習（急性期）	2単位	成人看護学実習（急性期）		2単位
	成人看護学実習（慢性期）	2単位	成人看護学実習（慢性期）		2単位
	老年看護学実習	3単位	老年看護学実習		3単位
	精神看護学実習	2単位	精神看護学実習		2単位
	地域・在宅看護学実習	2単位	地域・在宅看護学実習		2単位
4年生	課題探究実習*	4単位	総合実習		2単位
	総合実習	3単位	総合看護・看護研究Ⅱ		3単位
	卒業研究	3単位			
	卒業実習チームチャレンジ*	3単位			

成に努めていきたいと考える。

2. 『課題探究実習』

この科目は、4年生の前後期通年選択科目4単位として位置づけ、3年の臨地実習から卒業研究までを実践でつなぐことができるように配慮して設定された。3年生までの実習で興味・関心を抱いた課題を取り上げ、文献学習、実習、討議などを通してさらに掘り下げていく。研究課題としてより具体的にするために、たとえば、臨地での参加観察データ収集や事例検討を継続的に長期に亘って行い、卒業研究課題として探究する方法を模索する。実習を通して実践の場における研究態度、研究データ収集力および研究管理能力を養う。

3. 『卒業研究』

この科目は、4年生の前後期通年必修科目で3単位の实習として位置づけ、看護に関する研究課題を設定し、既存研究による課題解明の段階を明らかにし、段階に応じた研究への取り組みを計画し実施する。研究は、課題に関する既存文献の系統的な検討と整理統合、課題に関する調査、課題解決のための介入研究の立案・実施、あるいは事例検討などを行う。実習を通して実際のデータを収集し、自らが立てた問いを探究する。『課題探究実習』と連動して行うことができる。

4. 『卒業実習チームチャレンジ』

この科目は、4年生の後期に学生から看護職者への移行をより容易にすることを目的に設定された3単位の实習選択科目である。看護の対象となる人々の24時間における看護機能と責任を体験すること、新人看護職者が経験する多重課題状況における優先順位の判断を経験し、自己の力量のモニタリングと支援を求める方法を実習する。

V. 今後の課題

今後は、改訂カリキュラム運用を軌道に乗せ、学生の主体的な学びの実現をモニターすると共に、臨床実践能力の向上を継続的に評価し、教育にフィードバックしていくシステムを運用する必要がある。

既に開講したサービスラーニング本来の目的である市民としての責任感や素養を修得するには、継続したボランティア活動とリフレクションが必要である。したがって、この科目に関しても、初学年のみならず学年を超えた継続的な活動（サービスラーニングステップ1、ステップ2等）を評価するといったカリキュラム評価を行う必要がある。

引用文献

- 1) 田代順子, 瀬戸山陽子, 平林優子, 長松康子, 大森順子. (2011). Webによるサービスラーニング(総合科目Ⅲ 生活科学論)の初年度の科目の進め方と評価, 聖路加看護大学紀要, 37, 25-30.
- 2) 田代順子. (2012). ヘルス・プロフェッショナル育成のためのe-サービス・ラーニング・プログラムの開発研究過程と学び, 聖マリア学院大学紀要, 3, 3-8.
- 3) 松谷美和子, 田代順子, 香春知永, 酒井昌子, 三橋恭子, 平林優子, 森明子, 菱沼典子, 川越博美, 及川郁子, 小澤道子. (2004). 看護教育法としての「サービス・ラーニング」実践研究文献レビュー, 聖路加看護大学紀要, 30, 31-38.
- 4) Driscoll John. (Ed). (2007). Practicing Clinical Supervision. A Reflective Approach for Healthcare Professionals. Bailliere Trindall, Elsevier, USA.